

令和7年度 第2回 香南市産業振興計画策定委員会【議事録】

□日時：令和8年1月27日(火) 13:30～16:00

□場所：香南市役所本庁舎6階 604・605 会議室

□出席者：○策定委員14名【赤池委員(委員長)、別府委員(副委員長)、石丸委員、森 周平委員、岩神委員、梶原委員、森 善康委員、川崎委員、松田委員、小笠原委員、森尾委員、松村委員、飯島委員、江口委員】

○市職員17名【濱田市長、中島課長(情報政策課)、門脇課長、近藤補佐、小林係長(企画財政課)、小松課長、佐田補佐、川西係長、久武係長、澤村主事(農林水産課)、萩野課長、中屋補佐、藤原係長、平尾主幹、小松主査、野村主査、山本(商工観光課)】

○傍聴者1名【片山市議】

○オブザーバー1名【高知県地域支援企画員 山尾様】

□欠席者：○策定委員3名(三谷委員、西村委員、明石委員)

◆開催目的

第3期香南市産業振興計画令和7年度進捗状況及び令和8年度事業(案)について、各分野の担当課長より報告及び説明を行い、各分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者と分野を超えた横断的な議論を交わす。

◆内容

- ・ 令和7年度の進捗状況及び令和8年度の事業(案)について、各担当課長より報告。
- ・ 各部会長より令和7年11月から12月までに開催された各分野別部会での協議内容及び補足説明等。
- ・ 上記のことについての意見交換
- ・ 第3期香南市産業振興計画(令和8年度版)の改訂について

1. 開会

- ・ 事務局挨拶
- ・ 委員の変更について報告
(工業部会長がYAMAKIN(株)岡本委員から同社 総務部 社長付秘書長西村委員へ変更)
- ・ 欠席委員3名について報告。

本日の会は過半数以上の方の出席により、成立する旨を報告。

(香南市産業振興計画策定委員会設置条例第6条)

2. 市長挨拶

(濱田市長)

本日は大変寒い中、このように多くの委員の皆様にお集まりいただき、感謝申し上げます。

先日、高知県の報道等で出ていたが、高知県の出生数が新たに発表され、出生数が最小ということで、この傾向というのが非常に厳しい。

また、物価の高騰とそれによる社会への経済影響というものが出ている中において、いかに本市の産業全体を前に進めていくかということをごここで議論していただき、委員長をはじめ、皆様には本当に大変貴重なお時間、また貴重なご意見等を賜っていることに改めて感謝を申し上げます。

今日は令和7年度、そして令和8年度に向けての様々な振り返りと、そしてこれからに向けた話し合いになるというように承知している。

まさに、来年度というのは本市にとっても非常に重要な1年である。

新聞等で報道されているが、例えて言うならば、アクセルとブレーキを同時に踏むような感覚でこれから我々は毎日進んでいくが、その進み方について、それぞれの産業でどのようなことが必要であり、またどのようなことを足していかなければならないかということ、まさにこれからその知恵を皆様と共に出し合ってください、その知恵をいかに理解し、分かち合っていくかということになると思う。

引き続き、皆様のご尽力ご協力等をどうぞよろしくお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

(事務局)

議事に入る前に本日の流れの説明

資料の確認

資料の訂正

議事の1つ目は、令和7年度の進捗及び令和8年度の事業案について、各分野の担当課長よりご報告及びご説明をいただく。

2つ目は、令和8年度版の当計画について再度改訂のご議論をいただく。

次に議事に入る前に、資料の訂正をお願いする。

資料1「令和7年度香南市産業振興計画の取り組み状況について」内の20ページ、「広域連携の促進」に青文字で10月実績74万9503人、前年同月比プラス4万6053人と記載しているが、正しくは10月末実績74万9372人、前年同月比プラス4万5922人となる。

3. 議事 (進行:赤池委員長)

① 令和7年度の進捗及び令和8年度の事業(案)について

【農林業分野・水産業分野】

・農林水産課 小松課長より、農林業分野・水産業分野における令和7年度の進捗及び令和8年度の事業(案)について、資料1・2・3を用いて説明。

(赤池委員長)

農林業・水産業と説明があったが、各部長から補足及び説明をいただきたいと思う。

(石丸委員)

現在この地域では園芸と果樹が盛んに栽培されているが、園芸についてはニラとかピーマン、シシトウがメインになり、非常に若い後継者、県外からも参入されている方が非常に増えており、かなり大規模で経営をされているような状況になってきている。

市のサポートハウスでも2・3年間研修をし、若い20代後半の方が昨年8月から自立して、1億円近いハウスを建ててピーマンの栽培を始め、今のところ順調にしているようで、頑張っており成果が出てきているように思われる。

親元就農でも何名か就農しており、話を聞く中では順調に頑張っているという話も聞いている。

また、隣の芸西の方ではピーマンの栽培が盛んで、芸西も受け入れ体制が非常に増えてきて、なかなか入れない状況で、昨年からは香南市の方へ芸西の方から参入し、野市のライスセンターの南側で大規模なハウスを建てて栽培を始めている農家もいる。

今非常に資材が高騰している中で、ハウスの施設がやはり1億近いものになる。

そういった中でやはり心配されるのが、経営状態をうまくやらないと、なかなか資材代の支払いとかリースのハウス代とか、なかなか経営が厳しい状況にもなっている。

若い者も色々な情報を取り入れながら経営をしていってもらいたいと思っている。

また、果樹管内についても、地域おこし協力隊2名が研修を開始し、今露地のみかんを栽培している。

その他にも、地域おこし協力隊OBが西川地区において国の事業で基盤整備をし、段々畑を平らにし、栽培を始める計画もできている。

今後やはりその後継者がいない果樹産地でも基盤整備をしながら、若い後継者が育っていくような環境を作っていくかといけないと思っている。

少なからず、香南市でも若い後継者が育っているかなと感じている。

(森 周平委員)

水産業部会については、補足等はない。

(赤池委員長)

農林業部会の中でしっかり議論されているところではあるが、就農の相談件数は増えているが例年と同様で希望する品目や就農の形態がなかなかマッチしないところで、この具体的に補助要件を満たさない、補助要件を満たさない就農にはつながらないという理解でいいか。

(小松課長)

国の補助要件というのがあり、新規就農に対しては何かしらリスクがあり、例えば親元就農であ

れば、親の生産基盤があり機械等も揃っているので、リスクはないことから親元就農はダメになる。

ただ親元就農でも、お父さんがニラでその息子さんが別のピーマンをやるなど、品目を変えるのであれば構わないといった国の補助要件があり、他県など露地栽培であればそういったことは可能である。

例えば父親が大根を作っていたところに、息子がニンジンを作るとかそういったことは可能であり、他県ではできているが、高知県全体は園芸用の施設が多いのでなかなか厳しい状況である。

相談をしに来た方で、親元就農の方はすぐ就農につながっているが、新たに農業を始めようとした場合、就農するにあたって、研修を受けなければ補助金をもらえないとか、そういったこともある。

その研修を受けるにあっても、例えば家庭の状況で、どうしても子供が小さいので研修を受けられないとかそういった方もおり、なかなか要件を満たすことができない方もいる。

(後日回答追記)

新規参入の場合ではトラクターをはじめとする農業用機械や土地・ハウスの取得などで初期投資が大きく、補助金が無ければ、就農につながりにくいのが現状。

ただし、知人から借りる、教えてもらうなど周囲からのサポートが見込まれる場合で、補助金無しでも就農につながったケースはある。

また、息子が就農してくれるのであれば機械を更新したいといった希望などもあり、親元就農でも補助金の有無は大きな影響があると考えている。

それでも、新規参入よりは親元就農の方が補助要件を満たさない場合でも就農につながるケースは多く、補助要件を満たさなければ就農につながらないというわけではない。

(赤池委員長)

要件を満たさない相談者が多く、1つは親元就農をしたいという方との条件がなかなか難しいということ、また研修に出れる、出れないということが相談者として要件を満たすことができないということで、補助要件に不備があるというよりも、相談者のところでなかなかそこに合致していないという理解でいいか。

(小松課長)

そのようになる。

国の要件に満たない、親と同品目でないとなかなか就農できないということに対して、香南市では農業後継者推進事業により、親元での就農支援を市独自で取り組んでおり、相談などでは要件にマッチングして、スムーズに進んでいる。

(赤池委員長)

その点は香南市の特性で、香南市の単費でやられているということでもいいか。

一番ピックアップしているところとしても、親元就農ということが香南市においてはすごく重要

なところであり、それを国の補助と併せて単費でも対策をしているということか。

来年度以降も継続する方針など分かれば教えていただきたい。

(小松課長)

財政状況もあるが、香南市の目玉事業でもあり、結構人気のある事業なので、来年度は続けてやっていく予定である。

(石丸委員)

現場で言うと、親元就農というとすんなり入れるように思うが、ここ何人か後継者が入ってきているが、親子でもすれ違いがある。

そういった中で親は思っているように子供に指導をするが、子供は逆に親の言うことに反発じゃないが、食い違いが出てくるということでなかなか親元就農でも難しい部分があり、親元就農していた方でも、離農するケースもある。

うちも息子がいるが、上手に子供を育て上げるということで、親がぐっと堪えるというような体制でいかないと、なかなか後継者は育っていかんのかなというように思う。

(赤池委員長)

親元就農というのは、7名の実績のうちの何名ぐらいなのか。

(小松課長)

2 ページの農業後継者の実績の中にも書かれてあるが、大体相談者のうちの半分が就農につながっており、7名のうち約半分が親元就農である。

(赤池委員長)

ちなみに感覚的なことで構わないが、親元就農ではなく、香南市出身で非農家の方が市外に出て、戻ってきて香南市で働きたいという選択肢のところでは農業を選ばれる方はいるのか。

この7名のうちの半分ぐらいの方で香南市出身の方はいるのか。

(小松課長)

7名の中で、香南市を出て行って戻ってきた非農家の方はあまりいない。

(赤池委員長)

Uターンで就農する方は、基本的には親元就農ということがほとんどだということ、理解した。

(松田委員)

これから規模をだんだん拡大したり、小さい農家の方がやりにくくなってきていたりとかもあるが

作った作物を出荷場などで受け込む、そういう受け皿の整備もすごい大事だと思っている。

どんどん作っても、作業する、その受けるところがないと非常に困るわけで、今後法人や企業参入等、これから大規模な農家もだんだん出てくるわけだが、そういうところと事前に自分達 JA も打ち合わせをして計画を立ててやっていかないといけない。

どんどん作っていてもそれを価格、販売しないとお金にならないので、しっかりと安定、計画を立てて話を持っていかないといけない。

(松村委員)

親元就農ということでは、うちも息子が就農して花と一緒にやっている。

先日種苗会社の方や友人と九州の方に視察に行っており、帰ってきてから色々話を聞くと、親の言うことを聞かないというよりは、新しい技術や品質もどんどん改良されているが、それを言ってもなかなか受け入れない頑固な親が多い。

九州はすごく若い方も増えているらしく、私としては香南市も大事だけど、範囲を広げて、色んな人と関わって、また新しい情報を持って帰ってきて、そういう意見を話す、それで親御さんも、もっと積極的に新しいことをやったら、もっともっと前進すると感じる。

どんな分野でもそうだが、新しいことに挑戦する、新しいことに会うということは、すごくエネルギーをもらえることだから、そういうのはすごくいいと思う。

息子のやる気が出てきて、そのエネルギーというのが、すごくいいことだと思う。

(赤池委員長)

親元就農は、多分これからの香南市の農業のあり方として、すごく重要な部分ということは理解できた。

親元就農された時は、経営権というのは誰が持っているのか。

(松村委員)

自分のところは今のところは、夫だが、経営を渡す準備というか、気持ち的にはなっている。

先程言われた「同じ品目の場合は、なかなか補助金が下りにくい」というのでいえば、自分のところは、昔の農業で引き継いだ訳じゃないが U ターンして帰ってきた。

ハウスとかは自分たちで建てたが、古い倉庫とかもあり、それを子供の代で新しくしてもらうという時に、親元就農で資金が下りないというのはちょっときついかと思う。

ただ、新しく規模拡大や経営移譲をした場合は、補助金などもあると思うので積極的に調べていきたいと思う。

(赤池委員長)

親元就農する時に経営規模が様々だと思うが、先ほど受け入れという話もあり、これから法人も入ってくるのではないかとこのところだと思うが、親元就農される方、親元就農が可能な経営規模

というのはある程度大きいとか、施設が比較的新しいとか、それとも親子の関係がいいとか、年間3組ぐらいという話だと思うが、感覚的にはどういう方が親元就農されるのか。

(松村委員)

色んな人の話を聞くとときに、子供が継いでいるところは、親御さんもどんどん規模拡大というかどんどんやっていこうという感じがある。

子どもが継がないところは、すごい大変ということを親が前面的に出す。

仕事がしんどいとか、例えば売り上げが良くない時とか、山あり谷あり、どうしようかということもあるが、それでもやっぱりこの仕事に誇りを持つとか好きなので、頑張れるそういう姿を見ると、子供は多分その儲かるとか儲からないというよりも、魅力がある仕事かどうかというのは、そこはすごく大きいと思う。

もちろん経営、お金のことは考えないといけないから、そこは大事だと思うが。

(赤池委員長)

受入、親元就農するところは、親がバリバリで働いているというところ、勢いのある農家というところが結構大きいのか。

(松村委員)

自分のところは、最初は家族で経営をするという感覚であったが、これから花を作るには人も雇って園芸をしないとイケないということを農業始めた時に先輩に教えてもらった。

家庭内だけで、コストを下げて作るという守りではなく、どんどん人も雇って、新しい技術を取り入れて、それでいいものを作って収入を増やすということを最初に触れている。

(赤池委員長)

引退間際で親元就農するというより、親がバリバリで働いている時に親元に就農されるということ、経営者が高齢になってからではなかなか親元就農は感覚的にはしにくいというようなところか。

そうすると比較的若い農家の世代のところを対象になってくるのか、もう農業をできないから継ぐというよりも、バリバリとやっている時に、その姿を見て就農をするという感じ。

(松村委員)

お祖父さんの土地を気に入って、後を継ぐお孫さんとかもいるので、一概には言えないが。

(赤池委員長)

最後に話があると思うが、前回合同会議のワークショップで話が出た「香南市表彰」みたいなところで、カッコいい農家の姿をぜひいろんな方に見せてあげるところで、少し後押しになるかなと感じた。

他に意見がなければ、続いて商業・工業分野の説明をお願いする。

【商業分野・工業分野】

・商工観光課 萩野課長より、商業分野・工業分野における令和7年度の進捗及び令和8年度の事業(案)について、資料1・2・3を用いて説明。

(赤池委員長)

商業部会の補足を部会長よりお願いしたい。

(岩神委員)

商業部会では資料2に記載されているように、子ども議会の質問で出た香南市の特産品のPRに力を入れていただきたいことと、マルシェこうなんの代表をやらせていただいている立場の意見として感想を述べさせていただく。

フジグラン野市において、火曜日開催でお店を開いているが、ある程度固定客も増えて、楽しみにしていただけようになってきており、出店者も楽しみに開催している。

1月31日には蔦屋書店でもマルシェこうなんを18店舗で開催予定であり、今回また新たに参加していただけるお店の方もいる。

補助金等を使って、ガラポンも開催できることをありがたく思っており、香南市とか商工会の方からいろいろ援助いただいて、前に進んでいる。

余談だが、12月末に丸亀ポートの方でも4店舗だったが出店させていただいた。

今まで県内でしかマルシェこうなんとして出店していなかったもので、販売品目というか売上高はそんなにあるわけではないが、メロンと新米といった単価が高いものがすぐに売れた。

香南市のもっている力というか、そんな何かこうすごいなと思った。

(赤池委員長)

今回商業部会と関連して、商工会の川崎委員ご意見などいかがか。

(川崎委員)

前年度と比べて、創業者や空き店舗活用が減っている話があったが、店を例えばイチからやると改装費用などがだいぶかかるようになっていて、そのリスクを取れないといったことや、この計画では経営できないみたいところで、躊躇されるかなというところ。

相談に来られる方はそんなに減っていないと思うが、イニシャルコストがどうしてもここ数年で結構上がっているというところが原因にあり、それで空き店舗補助金の方も申請が少なくなっている。

事業承継についても、先ほどの農業分野の方でも話があったが、親族内、親子の承継というところは、色々こちらから後継者にアプローチをしても、それぞれ思うところがあり、なかなかコミュニケーションが取れず、進まないところも何か所があるが、商工会とか承継センターが橋渡しになって、承継していければいいのかなと考えている。

(赤池委員長)

商業・工業分野に関連して、ご意見またはご質問はないか。

(梶原委員)

香南市に新規創業をしたいと相談がある業者の業種と、香南市のどんなところを魅力的と感じて、どういう業者が集まってきているのかという情報があればお聞きしたい。

(川崎委員)

業種で一番多いのは飲食店をやりたいという方が多く、その次は美容関係が多い。

多分どこの土地でもそうだが、簡単に創業しやすいというところがあり、また今年創業しようとしている方もダブルワークのような形であり、また飲食関連では一人でやる方が多い。

どのようなところに魅力があるかというところは、大体お住まいが香南市、元々香南市出身の方がやる場合が多く、市外から来られてという方はあまりいない。

(梶原委員)

香南市は、東の方の中核的な市だと思い、感覚的にはもう少し東に住んでいる方が香南市で商売されたいなど思う方がいるかと思った。

(川崎委員)

多いのはやはり香南市にゆかりがある人やすでに香南市に住んでいる方が多い。

(赤池委員長)

年齢層は若い方が多いのか。

(川崎委員)

多いのは30代から50代で、20代の方はお金があまりないということで、30代40代とかが多い。

(石丸委員)

今年、赤岡の冬の夏祭りが最後ということで、あと山北の西川地区の花公園が高齢化のために継続ができないということで、昨年で終わった。

なかなか冬の夏祭りについても、後継者不足とか継続が厳しい状況なのか、やはり今若い者があまりそういう行事に興味がないのか、若い子は若い子なりの考えがあるので、なかなか従来年配の方が築き上げてきたものを継続していくというのが難しい部分があるかと思うが、赤岡はどのような状況か。

(川崎委員)

赤岡町自体に若い方が少ないこともあり、冬の夏祭りは元々赤岡の商店街とか住民の方がやられており、確かに実行委員も高齢になってきて、継続できないのかなど。

それだけではなく、色んなイベントがあって、どろめ祭りや絵金祭りなども実際、実行委員を担ってもらってる方、絵金祭りであれば保存会の方なんかもすごく高齢化してきている。

商工会が事務局をやったりしているが、この先どうなるのかという危惧は持っている。

市の方でやってもらいたいみたいな委員さんもいるが、それはそれで多分難しいのかなということもある。

全体的に若い方が減っているので、中心になってやる方が減ってるのかなというようなことは感じている。

(石丸委員)

赤岡の場合は、人口も少ないということで、どろめ祭りがメインであり、あれほど大きくなったイベントをなかなか消すのは大変だと思うし、継続してもらいたいと思う。

その中で非常にやっぱり地域の力が、地域が結束しないとなかなかできない部分があるので、年寄りがどうとは言えないが、地域でまとまってやっていってもらいたいと思う。

(江口委員)

県も産業振興計画があり、来年のバージョンアップというか改定の目玉、今月 21 日に本部の会議があった。

この前のフォローアップ会議でも少しその話も出たが、県の産業振興計画の来年度に向けてのバージョンアップのポイントが、今の県下の若者の流出というのがすごく厳しく、その 3、4 年ぐらい前までは、34 歳以下の若者の流出というのが、まあ 3,000 人台だったが、ここ 2 年ぐらいは 4,000 人台が続いている状況である。

増えている要因というのが 25 から 30 歳ぐらいまでの、要は採用された方が高い給料を求めて、都会に就職するみたいな部分もかなり増えているということで、その若い人たちを何とかその県内にいてもらうというような策をやるというのが、県の産業振興計画の目玉になり、この商業や特に工業の部分が一番大きいのかなと思いつつ、そういうところに注力をしていくところ。

今回工業の話を知りたいが、高校生大学生の方々の採用を目指して、合同説明会をされたということで、16 人今年度採用されたというのがあったと思うが、この合同説明会というのが効いているのか、この新規採用は中途採用みたいな方も含まれるのか、その辺りについて分かるのであれば教えてもらいたい。

(萩野課長)

工業分野の新規採用者は、中途採用が多いように伺っている。

また新規採用についても、退職された都度補充というような形で 4 月から採用という形でやっている企業も数社あるが、その他の企業でいくと比較的中途採用が多いように伺っている。

合同企業説明会については、説明会が就職につながったところまでは後追いがなかなかできていない状況である。

(江口委員)

どこの企業に聞いても特に工業系は中途採用が多く、この合同説明会で高校生や大学生がなかなか採用につなげていないのかなと思う。

ただ、やはり高校生や大学生の方々が入ってこれるようにやっていくということは大事であり、多分このエリアは工業で、結構県外につながっているのかなと思う。

県としてもこういうような、そこそこ大きい企業をさらに支援するみたいなことは、来年度の目玉にあり、100 億円企業を増やそうみたいなことをする。

こういう部分をもう少し研究をして、中途採用の方もなんか採用できるような感じのことを県が

やるみたいなので、そういうところも考えていただけたらという願いが一つ。

あともう一つ、奨学金の話が出たと思うが、今年度は対象の枠を広げてというのは、市内にお住まいで市外の企業に行かれる方も対象にしたということと思うが、地元就職されてる方が多いのか、そうでないのか分かれば教えていただきたい。

(萩野課長)

申請者は、市外に勤めに行かれている方が多い。

(江口委員)

そういう方々が工業的なところにお勤めいただけるかどうかというところはあるが、県内でも工業的な部分では有数の企業が集まっているので、企業とうまく何かできないかというのはある。

最後に工業部会の中の意見にもあるが、まさに住宅問題。

雇用が難しいという話だったが、住宅問題と考えている。

技能実習生の話も混ざっているが、工業団地の方々何人かから聞いても「なかなか住むところもない」と、何か考えていかないといけない。

色々あるようだが、ぜひとも住宅問題というところ、ぜひ市内に住んでいただきたいなというところもある。

住宅リフォーム事業とは全く別物と思うが、若者への住宅に対する手当を企業が考えるとかいうことはなかなかないだろうか。

難しいことと思うが、そういうところも必要ではないだろうかと考えているが、ここで話していた住宅事情についてとか、そういう企業への支援というか議論はまだない感じか。

(萩野課長)

工業部会で話した内容としては、各企業の皆さんが就職説明会の際に、お住まいになる地域で、例えば「アパートとかどういったものがある」とか、「どういう不動産屋さんに聞いたらいいか」とか、そこまでセットで聞かれることが多く、その辺のネットワークというか情報収集がなかなか企業さんでは限りもあるということで、集約できてすぐに提供できるようなものがあったら、市の方から情報提供いただきたいとのご意見もいただいている。

現在、市内の不動産業を営んでおられる方については、一定不定期ではあるが空き店舗物件の対策事業として巡回をさせていただいており、物件情報等の共有などのやりとりはあるが、賃貸のところまでなかなか詳細に聞くことができてないところがある。

そういったニーズも企業さんからあるということで、不動産業を営んでいる方にも話を今後させてもらい、必要な案件として具体化できるようなことに繋がれば、示していきたいと思う。

(江口委員)

ぜひ市外にお住まいで香南市に通われてくる方が多いようなので、市内に住んでいただいたらなというところの中で、そういうような不動産会社とかと協力して、何かできないかというところはぜひ考えていただきたい。

(赤池委員長)

16名の目標数値を超える人数だと思うが、16名はいわゆる市内の方が就職されているのか、移住という形で来られているのか、感覚的なところでもいいので、いかがか。

(萩野課長)

新規雇用 16 人の内訳については、香南市に住所を置いていただいた方の数になる。

令和 7 年度の新規雇用でいくと、35 人の新規雇用を市内の企業さんがされ、そのうち香南市内在住の方の雇用が 16 人という状況になっている。

この 16 人が元々香南市にいた方なのか、就職に合わせて香南市に引っ越してきたのかということまでは後追いができてない状況である。

(赤池委員長)

この 16 名というのは、特段その事業者に対しても補助があるわけではないのか。

(萩野課長)

製造業に関して、市からの補助はない。

(赤池委員長)

合同説明会であったり、中小企業の魅力向上の魅力発信のところで、事業としてはあるけれどもということで、承知した。

先ほど新卒、特に県外に若者が出ていく、特に大学生も含めて新卒という意味でいうと、今就職の状況は非常に良い状況である。

高知大学の学生もそうだが、基本的にはインターネットで仕事探しており、そうするとまず申し訳ないが県内の企業が引っかかってこない。

特に県外に出られた方はなおのことそうだと思う。

多分、県の方でも今ウェブサイトなんかで県内の企業の情報というのを高知県出身者に対して様々な形で発信しているとは思いますが、これから就職活動するときに、まずそういうサイトは見ておらず、普通にリクナビとかを見ている。

ぜひ県外に今出られてる方で、将来的に段階的に戻ってこられる、U ターンの方や移住者になると思うが、県内出身者のネットワークのところうまくこの就職の話が、若者本人というよりも地元にいる親御さんに情報を伝えたほうが良いような気がする。

「香南市ではこういう仕事があるよ、戻ってこないか」という話の方がしやすいのではないかなと、今の若者を見て感じるところである。

ぜひ引き続き、中小企業の魅力向上の取り組みについては市民の皆さんにも、いわゆる求職されている方だけではなくて市民の皆さんにもぜひ情報共有をしていただきたいなど感じた。

そのほか工業、商業分野でいかがか。

(梶原委員)

余談のような話になるかもしれないが、赤池委員長がお話しされたように就職する際に高校生は教員の話をよく聞くという話を聞いたことがある。

うちの本店の社長が講演したときに、学校としても就職実績を作るために県外の有力企業に積極的に生徒を出す傾向にあるという話を聞いたので、ここは取り組みとしては県外企業優先に幹旋していくような教員なり教職現場の方のスイッチを切り替えるということもすごく重要になってくると思う。

(赤池委員長)

地元企業の魅力を向上させるということはもちろんであり、それを上手に伝えるということはもちろんだが、そういった意味で引き続きいくと奨学金の返還助成事業があって、多分近隣自治体では奨学金ではなくて給付型でやられてると思う。

この辺り、私ちょっと差が結構あると思う。

大体高校までで奨学金を借りている人は少ない気がしており、大学に行ったときに奨学金借りてくれという話になると思う、特に県外に出るといふときになると。

だから奨学金の返還ということは、奨学金を借りてないといけないわけで、そこがちょっと他市の状況、多分ライバルになると思うが、はっきり言ってどっちに住むかで年間12万円変わる。

これ新卒からすると、すごく金額的に大きいと思う。

香南市で今36名ということで非常にいいが、高校生を対象にしたときの魅力というのを奨学金返還助成という形で打ち出すかどうか、色々補助の条件があると思うが、ぜひ香南市に住んでいただいて香南市の企業にお勤めいただける高校生、卒業生が増えていくようなところは引き続き支援していくことと、学校にもう少しアプローチしていきましょうというところかなと思う。

もし、商工観光課の方でお返事があればお願いします。

(萩野課長)

とくに無い。

(赤池委員長)

分かりました。

それでは他に、農林水産業、商業、工業分野、皆さんからご意見はないか。

なければ、ここで一旦休憩を挟んだ後、観光部会のほうに行きたいと思う。

【休憩(13分)】

【再開(15時5分~)】

【商業分野・工業分野】

・商工観光課 萩野課長より、観光分野における令和7年度の進捗及び令和8年度の事業(案)について、資料1・2・3を用いて説明。

(赤池委員長)

観光部会からの補足があれば、説明いただきたいと思う。

(梶原委員)

303 スタンプラリーとありますが、303と書いて「さんぼうさん」と、少し分かりにくいですが、303ということをやっている。

令和7年度の進捗についてだが、説明していただいたとおり、あんぱん効果により積極的な集客とか来場客数を全般的に見込めるのではないかと思っていたが、事業所によっては少なくなったというところもあった。

意見などということで、資料の方にも書いているが入込客数が減ったところでいくと、自動車博物館さんとかアクトランドさん、井上ワイナリーなどが減っており、のいち動物公園さん、絵金蔵さん、海辺の果樹園さんなんかでは増加傾向にあったということになっている。

部会で出た意見としては、香南市で飲食できるところが少ない、特に昼食について、朝・お昼で一旦香南市観光がリセットされて市外へ流出してるんじゃないかという声がすごく多かった。

飲食店とうまくつながれば滞在時間とかの延長、また周遊につなげられるのではないかという意見が出ていた。

また、最後皆さんとディスカッションしてるときに、香南市の観光分野の方向性についてもう少ししっかりと議論してはどうかという話があった。

というのも、市内の観光事業者、観光だけをしている事業者数というのがすごく少なく、観光業が日常業務ではない事業者が非常に多い。

これは三宝山エリアの4施設の観光を考える会でも話をするが、私の勤めるワイナリーは酒類製造業であり、観光的視点を持たないといけないと思う。

のいち動物公園さん、アクトランドさん自動車博物館さんも観光業として集客を考えていくという中で、おそらく市内の飲食店も含めて、例えばもう少し観光に対する施策をしっかりとみんなが考え、その方針を各分野において展開していくことで、横串刺さった観光の取り組みができるのではないかという話が部会で上がった。

特に「香南市こどもまんなか」という施策を打ち出されているので、もう少し子どもに特化して、各分野での観光施策を作って、それを各事業者へ展開していくと、もう少し香南市の観光の受け皿が広がっていくのではないかということも話が出た。

観光業が日常業務ではない業者が観光業に携わっているということで、自動車博物館の横田委員からは、もう少し観光に特化した勉強会のようなものをして、みんなで観光学なりマーケティングなり、あと受け入れ体制なりをもう少ししっかり考えた上で、勉強会、頭を使って、頭で汗をかいてみてはどうかという話が出ている。

補足としては以上になる。

(赤池委員長)

森尾委員、観光全般に関していかがか。

(森尾委員)

あんぱんの効果を感じられた事業所さんもいれば、少し客層が変わっていたというように感じられたところではあるが、三宝山エリアの4施設の皆様もいかにして人の流れを作るかというようなところや、周遊促進というところを考えられて、取り組んでくださっているかと思う。

そのようなことに対して、観光協会としては SNS の発信や、足を運んでどのようなことをやっているのかということを見に行き、少しでも PR ができればなというように思う。

確かに、皆さんどこに行ってるんだらうと思う点もあるし、あんぱんについては香南市は主要な施設が少ないということもあるが、この物部川エリアにいろんなお客様が滞在し、周遊していただけたことは確かだと思うので、この流れを今期で止めずに今後も引き継いでやっていきたいなというふうに感じている。

(赤池委員長)

小笠原委員いかがでしょうか。

(小笠原委員)

先ほどいろいろご指摘があった中で、昼食で流出してるのではないかとというようなところ、確かにアンケートなどを取ると、昼は遊びに来たところで食べるけれども、夜ご飯はひろめ市場に行くよとか、そういった観光客は確かに多い。

そこへの取り組みもできるところはやっていくということであり、先ほど子どもにスポットを当てて施策をしていくということなどでは、あんぱんに絡めて、「もぐもぐものべ こども図鑑」など弊社としてもやってきており、ターゲットに合わせてこんなところがあるよというような施設紹介もやっていけたらと考えている。

あと、観光業が日常でないというところでは、もう少しマーケティングなどを皆さんと共有していただければいいのではないかとということで、DMO のこれからの 5 年間の計画の中でも事業者さんとマーケティング結果の共有を重要な施策として挙げている。

ただ、良かったところもたくさんあり、そのうちの一つでいうとお客様単価は少しずつ上がってきているのではないかなと感じるところがある。

宿泊キャンペーンなどを今ちょうど行っており、宿泊も宿泊単価によって割引率が変わるというような事業をやっているが、一番高い単価、例えば 6 万円以上使う人とかいう人たちのほうの利用率が高い。

そういったところを見ると、お客様がお金を使うということが少し増えている、どうしても物価高というのはあるが、そこには日本人も使う金額が上がってきている、かつ外国人も入ってきているということが見えてきてるのではないかと考えている。

(赤池委員長)

皆様から観光分野に関して、それぞれの立場からでも構わないので、観光に関するご意見、ご質問をお伺いしたい。

(飯島委員)

303 スタンプラリーの詳しい概要が分からないが、このスタンプラリーはウォークラリーではな

く、車で移動しているということか。

(梶原委員)

移動手段は問わず、各施設で決めた利用額、もしくはサービスを受けた方はガチャポンを回すことができ、景品が当たるという仕組みになる。

(飯島委員)

僕はそれこそ移住してきて、この三宝山と龍河洞をつなぐスカイラインを結構走る。

仕事柄、アイデアに詰まったときに、少し俯瞰したところから香南市を見たいなと思い、その道中にすごく魅力的な場所がある。

休憩場所もあり、結構朝に行くとき歩いてる方もいて、すごいこの人たち羨ましいなと思う。

もしかしたら、のいち動物公園、井上ワイナリー、アクランド、その道中を歩いてみたりして、景観とかにも価値があるのではないかなというように僕は今思った。

あと、昼食をどうしてるのかというのは地元だからあれですけど、残念ながらコンビニもすごい使われていうのはある。

あとは観光に関しては、リピーター、ものべすとのリピーターに向けて、もうどんどん先、先、先というように考えたほうがいいと思う。

リピーターに向けたイベント、アイデア、そういうのをもう動き出されてるのかもしれないが、先、先を考えてみてはどうだろうかと思った。

(赤池委員長)

多分、先ほどの三宝山の話については、梶原委員にお話しいただくのがいいのか、いかがでしょうか、私は、坂が急だなと感じたところだが。

(梶原委員)

三宝山エリアの4施設の観光を考える会では、三宝山、大谷地区と三宝山への上がり道の活用ということはすごく考えてはいるところ。

リピーターに絡んでくることだが、やはり4施設だけでリピーターを稼いでいくというのは非常に難しいことで、リピーターを稼ぐには飲食や、子どもさんに紐づくようなお店との連携が必要だと考えているところ。

ただ、エリアを考える会についてもまだ発足したばかりで、なかなか自走できてないという部分もあり、市内、もしくは広域の飲食店さんにこういう取り組みを一緒にしませんかとまだお声がけするまでに至っていないので、早ければ今年の新しいイベント、もしくは来期にもう少しリピーターや来てくれたお客さんがもう1回来たいなって思わせるような業種、それが例えば農業のほうの農業体験になるかもしれないし、今はなくなった漁業のほうの地引き網を復活させてはどうだとかという話にもなってくるかもしれない。

三宝山を考える会のほうが再々言うが、観光業を日常業務としてやっていると非常に少ないので、色んな部会の皆さんに観光的視点をもう少し持っていただき、自分たちから提案をしていただいて協力してもらうようなことでないと、なかなか地域の活性化とか地域観光を盛り上げていくのは難しいのではないかとすごく考えているところ。

質問と自分が喋ってる内容が全く違うことは理解しているが、そういう意味でもやはり観光の施策、その「こどもまんなか」というのをどこが作って各分野に方針を出して、方針を店舗ごと、事業ごとで展開して組み込んでいくのかという仕組みを作らないと。

すごくいいものはたくさんあるが、観光業として観光で稼いでいくプラン、市というのはなかなか形として作っていきにくいのかなと考えている。

飯島委員のおっしゃっていただいた三宝山へつながっていく道の途中に展望台もあるが、そこは四国銀行さんが手を入れて間伐をしていただいたりということをしてきている。

このような形で市外の大きい会社さんもお手伝いをいただいているようなところなので、なんとか一体感を出していきたいなと考えてるところなので、いにご意見あればまたよろしくお願ひしたい。

(赤池委員長)

これは三市の戦略というところだと思う。

産業振興計画の中で、どちらかというと産業振興計画観光部会で、多分より発展してというか、戦略のところ、観光だけで経営している人があまり少ないところでどういう戦略を立てていくのかというところは、今の香南市もそうであるし、三市共通するところなのかなと思う。

これを進めるのは、これ DMO を中心にやってくるのか、そういう組織体があるのか。

(小笠原委員)

県の方でも取り組んでいることもあると思うし、弊社の方でも。

(赤池委員長)

香南市だけでそういう戦略を話す機会はこの時しかないのか。

アクションプランではなくて、香南市全体という意味で言うところの産業振興計画の、このところになるのか、他に観光で集まる会みたいなのがあるのか。

(小笠原委員)

組織やテーマを話すというところはあるが、梶原委員などにも来てもらい、会をするということはこれまではなくて、そこのもっと情報共有しなければならない、そういうところで次年度からの計画でマーケティングのところなどを皆さんに共有するということを検討している。

(赤池委員長)

理解した。

(飯島委員)

意見等で、「こどもまんなか社会」っていうのががあるが、そこで少し引っかかかっていて、香美市は秦山公園、南国市には吾岡山文化の森公園があり、香南市の子どもが他の市に行ってしまうというのが。

(梶原委員)

おそらく、三市でいくと子ども向けの施設は香南市が一番揃っているかなと思う。

月見山もあるし、ヤ・シィパークもあり、あとワイナリーの下、墓地公園の横にもアスレチック広場や、ウォーキングトレイルもある。

(濱田市長)

のいち動物公園も。

(梶原委員)

のいち地動物公園もあって、ただそこが連携してターゲットが決まらず、何をしようというのが決まっていないまま、各施設がバラバラで集客をしている感がすごく観光に携わる人たちにある。

ターゲットを決めて、子育て世代ならばそれを決めて、例えばそれ用の助成金を出して、乳幼児が座れる椅子を入れようとか、なんというかコントロールセンターがないような気がする。

(飯島委員)

子どもたちが遊べる空間というのが、雨の日とか絶対ないんで、イオンに行っちゃっている。

イオンに負けたくないなみたいなのが、なんとなく自分の心の中で、親としてある。

秦山公園のふわふわドーム、のいち動物公園にもあるが、1日中飛んでいる、何がそんなに魅力的なのかなと感じるが、1日中いれる、無料で入れる、そういう公園、雨にも強い遊べる空間というのが、観光担当課なのかどの課か分からないが、公園なのか何かできたらいいなというのは昔から思っていた。

(江口委員)

今、公園の話も出て、どこがコントロールしていくのか、いくんだという話が出た。

DMOは多分物部川エリア、三市の全体のコントロールだと思う。

香南市には、先ほどにも出たが1つ公園をとってもたくさんあり、公園は月見山もあればヤ・シィパーク、海もある、とても魅力的だと思う。

ヤ・シィパークに新しい遊具入れるとかいろいろあるが、そういうところをうまく見せるのは、ここで言うのも悪いが、観光協会にもう少し頑張ってもらいたい、ぜひ、観光協会に。

今回先ほどにもあったように、のいち動物公園は今年多分人が結構入った。

なぜ入ったかという、後半はあまりなかったような気がするが、割とこのものべすとが始まった

4月、5月、6月に、いろいろな情報をメディアに載せて発信していた。

何かの子どもが生まれたとか、こういうようなイベントがあるよとか、そのような発信を4月とかに動物公園とかうまく発信していた。

ぜひ観光協会にお願いしたいのは、公園なら公園というものを使って、この季節にはこういうものがあります、家族連れで来てくださいみたいな、単なるSNSの情報発信ではなく、もっとメディアを使った広報のかたち、ニュースで取り上げてもらえるような形の情報発信というのが1つあり、お金を払って広告を出すという方法もある。

そのような情報の出し方で、子どもが遊べるものがあることをうまくメディアに拾ってもらえるような出し方を考えたほうがいいかなと。

これはぜひDMOでもお願いしたい話だと思う。

(赤池委員長)

産業振興計画そのものを立てている自治体はほとんどなく、もちろんそれぞれの計画、県はもちろんやっているが、観光分野を1つの分野として、産業振興計画の中で計画ができてきているということであるので、DMOで三市の計画や戦略はもちろんだが、香南市としての戦略、特に事業者の密なコミュニケーションというところだと思う。

そこが議論できるような体制を、自主的に、民間中心にということが大切だと思うので、そのところをこの産業振興計画の中でも、その場を作るということに尽力していくことができるといいと思うが、商工観光課長いかがか。

(萩野課長)

市から発信するというだけでは限界があるということと、産業振興計画は観光だけではなくて、基には市の総生産額を前年より何パーセント上げていこうということがあり、各分野で目標数値を立てて取り組んでいこうというような形でやっている。

観光分野の事業者さんにも、こういう場を介していろいろご意見いただいて、シンクタンクのような位置づけで事業を出していくというのが本来の趣旨であるので、観光部会等で積極的に意見を言っていただき、事業のほうをこれからも深く検討していきたいと思っている。

(赤池委員長)

では、民間の事業者の皆さんでコミュニケーションを取るとのことの1つの提案先として、この部会というような位置づけというのが考えられるということによろしいか。

そのほかいかがか。

(小笠原委員)

今話を聞いて気づいたことは、毎年、年に1回か2回ぐらいDMOでもこの三市の観光、香南市の観光の方にも各市を知ってもらう、今年夏にも南国を知ってもらうというような勉強会を開

催しており、そのつながりは確かに強力にはできているなど感じている。

他の市をまたぐということもそうだが、井上ワイナリーさんが例えば海辺の果樹園さんの仕事を知らうとか、どういうお客さんが来ているのかを知るということがそういう場で生まれてきているので、今の内容をもっとDMOでも三市をつなげていきたいと思う。

(赤池委員長)

そのような場に金融機関から参加していただくことは可能だろうか。

やはり観光事業者、特に香南市を中心とした観光誘導や観光だけではなく、飲食も含めてコミュニケーションを取るような場に関わっていただけるか、どうだろうか。

(森 善康委員)

それは大丈夫だと思う。

少し話を聞いていて、梶原委員が言ったように、観光だけでなく全部のつながりとか、例えば先ほど言った公園の整備等もやらせていただいたりしているが、もう1ついつも山北でみかんの収穫時に手伝いとかをさせていただいている。

その場合、子ども連れ、家族を連れて来たりするので、子どもの役に立つ情報があると、時期的なものだが、子どもや家族と一緒にいくとか、県外から見ても魅力がどのように感じるのか、自分は良いと思う。

家族で行ってみようとなった来たときに、ここの施設を回っていくといいとか、動物園とか温泉もあるし、井上ワイナリーさんもあるので、そういったところのつながりで回っていくような流れになっていくのが一番いい形になっていくのではないかというのが私も思っているところであるので、そのような会があれば、私のほうも出席をさせていただき、話を聞かせていただければと思う。

(森尾委員)

それこそ、飯島委員が言ってくださった、「歩く」ということで、視点がなるほどなと思ったところがある。

少し話は戻るが、子どもを連れていくと、一番にのいち冒険の森、動物公園、最後に井上ワイナリーのソフトクリームに終わるみたいで、もう延々遊ぶような、そこまでがセットという感じの動きがある。

それは車で走っているだけでなく、歩くと違う視点が見えて、子どもたちが楽しく遊んでいる様子も見ると、あまり表立ってできていないけれど、魅力的なところで子どもらが体も使って遊べて満足できるというようなところが、ぐるっと歩いて回れるところにあるということも、もう少し広報的なものも、予算が全くないので、お金がかからないような感じの取り組みを来年度もう少し力を入れていきたいと思う。

他に、香南市では観光協会が事務局をやらせていただいて「観光施設連絡会」という会を設けており、年に3回ほどやっている。

今はあんぱんに関する情報共有だとか、香南市の補助金のご案内、あとはそれぞれの施設の情報共有を中心にやっているが、その会には飲食事業者さん、宿泊事業者さん、観光事業者さん、あとはDMOさんにもあんぱん関連では入っていただいております、香南市の商工観光課の皆さんにも参加していただいている会があるので、もっと魅力的な取り組みの発信とかに少し視点を置いて取り組んでいきたいと思う。

(赤池委員長)

観光関連で1つだけ少し視点をまた広くインバウンドの話だが、ちょうど昨日県の産業振興計画の観光部会があり、そちらに参加をしていた。

空港の整備をはじめ、インバウンドにさらに力を入れていくというところが大きなポイントの1つで、その中で私が感じたところとしては、やはり香南市は空港が近いということもそうだが、香南市の皆さんも海外に行くのが非常に便利なところということ。

タクシーで駅から空港まで500円で行けるし、空港行く便利は、非常にいい。

来年度以降、多分パスポートの取得がもっと金額的に安くなると思うし、より多くの香南市の皆さんが台湾に行く機会が、海外に行く機会が増えるのではないかなと思う。

私が台湾の人たちと話をし、「たくさん来てください」と言うのですが、「では、あなたたちは来てくれるんですか」と言われたときにきちんとお答えができない。

やはり、相互の関係を作っていくという意味で、ぜひ香南市さんをはじめ、三市でもいいのかもしれないが姉妹都市とか、少し教育とか観光とか農業とか、様々な分野での台湾との連携を見据えた、それこそ戦略だと思う。

例えば、香南市であればサイクリング、マリンスポーツもそうだと思うし、ニラだと台湾の台中市というところが有名なのだが、ニラの生産地と交流するとか、そこは戦略的に高知県としてどこか具体的な姉妹都市というのは、多分もう少し時間がかかると思うので、先に人の交流というのを台湾と、より具体的にできていくと、教育旅行はもちろん、観光を通して海外の皆さんをより身近に感じていただけるのかなとも思う。

少し先の話というか戦略的な話だと思うが、具体的に香南市と台湾のなんとか市との交流を通じた観光、または教育の交流というのができていくといいのではないかと個人的には感じたところである。

少し時間超過しており、観光のところはここで締めさせていただきますと思う。

②第3期香南市産業振興計画(令和8年度版)の改訂について

(赤池委員長)

それでは、そのまま議事②香南市産業振興計画令和8年度版の改定に移りたいと思う。

来年度の計画については大きなところで言うと、資料3の11ページのところで、住宅リフォーム推進事業がなくなるということだが、委員の皆様からご承認をいただきたいと思う。

▷ 出席委員全員より承認

(赤池委員長)

ここまでのところ、議事①、②と連続して審議したが、全体を通じて皆さんから言い残したこと、また来年度に向けてのところでご意見があればお願いしたいが、いかがか。

特にないということであれば、以上で私の進行を任されているところは以上になり、進行をここで私のところで終わらせていただいて、あとは事務局にお返りする。

(事務局)

事務局より、令和8年度のスケジュール案について説明。(参考資料1)

また、令和8年度事業予定である「香南市産業振興計画表彰」について説明。(参考資料2)

詳細については、令和8年度の分野別部会及び第1回策定委員会にて説明予定。

◆閉会挨拶

(別府副委員長)

皆さん今日は、長時間にわたり、熱心に議論をいただき本当に感謝申し上げます。

今年度から3年間の新しい第3期の産業振興計画をスタートして、あっという間に1年間が過ぎようとしている。

来年度としても、物価高騰の状況も続いており、また高齢化、担い手不足などの課題も続けて取り組んでいくとのことであった。

今日も、委員の皆様から本当に、担い手をどう確保していくのかとか、あるいは若者の県外流出をどうやって防いでいくのか、観光面について、次のアフターあんぱんに向けて、今後どういう風に市内の事業者さんに、この香南市へ来ているお客さんをどう流していくのか、どう楽しんでもらうのかを今後、しっかり戦略的なものを考えていかなければいけないようなきっかけもいただいた。

今後も引き続き委員の皆様、それから従業者の皆様のご意見もいただきながら、大変な時であるが、しっかりと持続可能な香南市、それから香南市の活性化に向けて取り組んでいきたいと思っている。

引き続きのご支援ご協力の方をお願い申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。

(事務局)

以上をもって令和7年度第2回香南市産業振興計画策定委員会を終了する。

以上